

News letter

Japanese Nursing Society of PAS Based Self-Care



PAS-SCT 看護学会第 5 回大会 大会長挨拶

PAS セルフケアセラピー看護学会第 5 回大会の開催にあたって

第 5 回大会 大会長 荒木孝治
(大阪医科薬科大学看護学部 教授)

コロナ禍の収束はいまだ見通せませんが、皆様方に皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。この度、PAS セルフケアセラピー看護学会第 5 回大会を、2022 年 9 月 4 日（日）に開催させていただくことになりました。

4 年前の 2018 年 9 月に宇佐美しおり先生が大会長を務められ、PAS セルフケアセラピー看護学会設立記念第 1 回大会が東京（於・キャンパス・イノベーションセンター東京）で行われました。熱気に満ち溢れる大会であったことをよく覚えております。

ここで一つ紹介させていただきたいのは南裕子先生よる基調講演の中の一節です。先生は具体的な例を上げながら、セルフケアの「セルフ」（自己）について「とくに日本人にとっては余程安心できる関係でないと、他人（看護師を含む）に「セルフ」を見せたがらないものだ」とお話しになりました。

この言葉は私にとって、慢性期の精神科療養病棟での長期在院患者へのセルフケア看護を考える際、患者は「見せたくない」（セルフ）ところに、「自ら手が届くこと（セルフケア）」をずっと求めているということにあらためて気づかせてくれました。

設立記念第 1 回大会の主要な講演・シンポジウムの記事は PAS セルフケアセラピー看護学会誌第 1 巻に掲載されておりますので、ご関心のある方はぜひお読みいただければと思います。南先生は「セルフ」に関連して、「本当のセルフケア概念を考えたときに、本当のセルフとは何かを考えて、続けていてほしい。ただ、相手の人ができないから介入する権利があるわけではない。相手が、私たちが介入すること、中に入っていくことを許して初めて、何か私たちにできるものなのだ、と私は思っています」と話しておられます（上記学会誌、p.11）。「相手が許して初めて何か私たちにできるものなのだ」、このための方法について今後も学会を通して考えていければと思います。

本年度も COVID-19 の蔓延防止の観点からオンラインでの開催となりますが、本大会が意義深いものとなるよう、大会企画委員会、大会事務局を中心として鋭意準備を進めているところです。多数の皆様のご参加を心からお待ちしております。

第 5 回大会ホームページ▶▶<https://www.pas-sctnursingconference.com/>





9月4日 日曜日 第5回大会のご案内と学会の動向

PAS-SCT 看護学会理事長 宇佐美しおり

(四天王寺大学看護学部 教授, 看護実践開発研究センター センター長)

猛暑が続きますが、コロナ対応病床利用率約 6 割と、皆様におかれましては大変ご苦勞をされている日々と存じます。

この混沌とした中、PAS-SCT 看護学会は荒木孝治大会長（大阪医科薬科大学教授）のもと9月4日に第5回大会を開催し、いま治療が難しくなっている慢性疾患の患者様や対応困難な患者様への確実な回復を促す看護介入技法に関するケース検討、事例報告・実践報告、事例研究の発表、介入起点に関する介入技法の大会企画を行います。悪性腫瘍や慢性疾患患者様へのセルフケア看護に関する荒尾晴恵教授の基調講演や本庄恵子先生の特別講演、科学的事例研究に関する小谷英文先生の教育講演を計画しています。いま看護界で必要な実践能力や研究能力に関する情報交換を行いますので多くの皆様にご参加頂ければと思います。

また、PAS-SCT 看護学会は J-STAGE に学会誌を登録し、オンラインでも検索できるようシステムを整えました。J-STAGE でオンライン検索ができるようになるとセルフケアプログラムや PAS-SCT の介入成果や課題などを多くの方にご理解いただけるようになります。それとともに学術的にも改めて科学としてのセルフケア看護のありようを問われることとなります。実践・研究・教育にセルフケア看護が貢献できるよう尽力していきたいと思っております。そして2024年度は診療報酬・介護報酬の同時改訂が行われますが、これまでの研究成果や課題をもとに、学会としても専門看護介入技法が診療報酬や介護報酬に反映できるよう準備しています。

さらに第2期理事・監事選挙も終わりました。第2期の理事・監事は総会でまたご承認いただきますが、学会がさらに発展できるよう一丸となって努力していきたいと考えています。

コロナの苦境の時だからこそ、確実な実践や研究を展開できればと思っておりますので、学会活動への皆様のご協力、今後ともよろしく願いいたします。





【2021年 第3回トレーニング】

第3回学会トレーニングに参加して

門池弘次

(特定医療法人富尾会 桜が丘病院)

元々心の病気に興味関心が有り、勤労学生として看護学校へ入学し精神科病院に勤務しながら登校していました。当時勤務した病院はあまり教育に力を注いでいない風潮が有り素人目からしても心に寄り添う看護介入はしていない様に見えていました。そして実習での精神科領域での実習指導者にも熱意が感じられず本当に心に寄り添う看護とは何だろうと思っていました。そんな時に当院に就職致しました。院内での宇佐美先生の講義を受講した時に全く内容に着いて行けませんでした。これこそ自分が学びたいと思っていた事だと直感し宇佐美先生の講義は絶対に受け続けたいと思う様に成りました。そしてよりこの思いに拍車を駆けたのが、同じ病棟に CNS 候補生が居り専門教育を受けた看護師と普通に教育を受けただけの看護師とでは、明らかに患者様に対する対応やアセスメント力に違いが有り本腰を入れて講義を受けたいと思ひ学会に加入致しました。

今回で2回目の学会トレーニング参加となりましたが、未だに宇佐美先生や小谷先生の話される事に追いついていないのが実情です。今回初めて私の事例を発表させて頂き御教授を受けた際に考えても見なかった見解が有り目から鱗が落ちる思いがしました。出勤時は必ず事例の患者様とコミュニケーションを取っていますが、受け持ちで有るのにも関わらず私が全く気が付かなかった事をまるで実際に患者様を目の前にして教えを頂いている気持ちになりました。そしてアセスメントでも PAS-SCT 看護理論をどの様に活用すればより効果的に介入出来るかも学ぶ事が出来ました。今回のトレーニングで、私が強化すべき課題も判りました。それは、アセスメントに基づいたトーク力です。今後もトレーニングに参加させて頂き沢山の学びを得て臨床の場で発揮出来ればと思います。

学会主催トレーニング参加までと「参加のすゝめ」

寺田廣

(碧水会長谷川病院 精神看護専門看護師・公認心理師)

数年前に長谷川病院に就職して、それまで相互作用理論一途だった私に、黒船の様なセルフケア理論が襲いました。食わず嫌いな私は、セルフケア理論を棚上げし相変わらず臨床では相互作用理論の鎖国状態でした。更にリカバリーという新たな黒船が開国を求めてきました。そのため、セルフケア理論とリカバリー理論の混在が起り、私には臨床現場が混乱しているように見えました。ある後輩から「この混乱どうすればいいですか？」と質問を受けたとき、「こだわらないで、いいとこ取りすれば」と答えたのを覚えています。同時に、私自身が開国して新文化に触れないといけないのかなと感じた時でした。

その後ひっそり検索サイトで「セルフケア」「学会」のキーワードでヒットしたのが PAS-SCT 学会でした。運良く第二回学会に参加でき、小谷先生が講演で話されていた $y=f(x)$ の公理化(ケースフォーミュレ

ーション)の考え方が「美しい」と感じました。この思いがきっかけで学会主催のトレーニングに参加することにしました。このトレーニングの話を井之頭病院の長谷川 CNS に伝えたら「参加する」ということで一緒に参加することになりました。参加して感じた事は、私の長期のアルコールケアの経験から、参加当初は事例対象者の「不健康な甘え(操作)」に関心がありました。今は「PEA 紐過程」に関心が移っています。参加を重ね、小谷先生、宇佐美先生の助言から、ふと私は「患者にとって健康的に甘えられる存在なのか?」「患者の発する情報を正確に知覚することが出来ているのか?」という患者の問題より、自身の課題を感じるようになりました。これは愉快でもあり不愉快でもあります。このようにトレーニングを継続参加することで、自身の課題を発見できる機会を得ることが「参加のすゝめ」です。今後も、皆様ご指導よろしくお願い致します。

【第4回学会トレーニング】

2021年第4回PAS—SCT看護学会主催トレーニングに参加して

富田智美

(高知医療センター がん看護専門看護師)

がん看護専門看護師として、がん患者さんとそのご家族に関わっています。死の恐怖を抱えながらも治療を受け生に向き合う患者さん。最初は、生きようと自分でできることに必死に取り組んでいた患者さんが、恐怖やストレスが大きい治療が長期化するなかで、次第にセルフケアが低下し依存的になってしまうことがありました。なにか介入の糸口を見つけないと面談をしても堂々巡りになってしまうこともあり、有効な介入技法を身に付けたいと思いトレーニングに参加しています。

トレーニングの中では、患者役・看護師役にわかれてロールプレイを行います。患者役の発する言葉の全てにアンテナを張り、感情が高まるどころはどこかとノードルポイントの捉え方や、DER過程を促進する具体的な声かけの方法を学びます。そして、ケースフォーミレーションを行うことで、自分の介入ポイントを絞り込んだり、介入の結果として期待される効果を整理する訓練をします。実際の事例を通して、小谷先生と宇佐美先生からアドバイスを受けることで、患者理解の視点についてアセスメントが広がる体験や、自分はまだまだ危機的状況にある患者さんへ介入する際に、CNSとしての専門性をもち「その場でできる最善を行動に移す」ことができていると気づくことができました。

まだまだ力不足ではありますが、トレーニングで得た学びや気づきをもとに、考えたことを行動に移す勇気や、患者さん・ご家族の抱えている恐怖や辛さにぐっと踏み込む覚悟を持つことができるようになったと思います。今後も、トレーニングに参加し介入技術を伸ばしていきたいと思っています。

第4回PAS-SCT看護学会主催トレーニングに参加して

荻堂盛大

(熊本大学病院)

私は、2018年のPAS-SCT学会創立から学会主催のトレーニングに参加させて頂いております。なぜ継続してトレーニングに参加をしているのかというと、毎回新たな発見や自分の実践や研究につながるトレーニングだと実感しているからです。今回は、基本的なPASセルフケアの講義から始まり、宇佐美先

生の事例を参加者全員でディスカッションを行いました。後半は、参加者自身の事例検討をグループで分かれて討議を行い、その後、全体で発表を行い、みんなで共有しながらアドバイスを頂くことができました。

事例を通して、ケースフォーミュレーションについて参加者全員でディスカッションを行いながら、変化させたい従属変数を確定することで、介入すべき独立変数が明らかになっていき、ブラッシュアップしていくことを感じる事ができました。特に印象に残っているのは、不安焦燥感と不穏状態をきちんと分ける必要があること、また不安を感じる事ができる神経症水準なのか、不安も保持できない人格障害水準や精神病水準なのか、現在の問題は、どの発達段階の課題から起因しているのか、事例の構成、分析、再構成を行う中で、それぞれの変数を特定できていくことが分かりました。また衝動性からくる反動形成という態度を CNS の前だけでとるという面から、転移が起きており、親への愛情の求めがあることがあると検討することができました。このように、看護師としての自分の存在が対象者にどのような関係性を構築できるのか見ていくことで、対照関係性を見ていくことができることが分かりました。

最後に、中核的な問題に対して、アルゴリズムが構築できることで PAS-SCT の発見型事例研究の価値が出てくるのだと感じることができました。今回学んだことを、病棟の困難患者に対して実践し、今後のトレーニングの中で事例発表を行い、アドバイスを頂きながら PAS セルフケアの介入技術を向上させていきたいです。

【2022年 第1回トレーニング】

第1回トレーニングで体験した学びと自己の気づきについて

大瀧明子

(滋賀医科大学医学部附属病院 精神看護専門看護師)

今回、トレーニングに参加するにあたり以下の2点を心掛けました。まずは、率直な思いをその場で自分の言葉で発することと、聴くだけでなく変化を促す CNS に変わりたい欲求を意識しました。その起点は、小谷先生の「患者さんの欲動展開をみる前に自分の欲動展開を見なさい」との言葉でした。できていない自分は悔しいけれど、自分が目指したい CNS は心の中にある。まだできていないけど、アンダーウッド先生の教える理論的に教えて下さる宇佐美先生と、どんな状況でも人の心を正しく読んで動かす小谷先生がいらっしやる。ここで頑張れば、何か掴めるはず。そんな思いと「なんとかしたい患者さん」の姿がありました。

1日目の学びは『ポジティブフィードバックとネガティブフィードバック』です。目の前の患者さんが体験される意味を察しながらセラピストとして新たな刺激となる言葉を発する事。Th 役をしましたが、勢いが強く患者さんの懐へ入れませんでした。今の自分の課題です。

2日目の気づきは、「変わりたい」自分が既に変わり始めていたことです。以前面談した患者さん2人程が号泣し「変わりたい。」と話された事を思い出し、力動だと気付かされました。トレーニングに目を向けると「人が変われば患者さんの反応が変わる」ことを続けています。慧眼でした。それを小谷先生は楽しめと仰います。トレーニング後、一人になり心のエネルギー、精神力動の凄さ(怖さ)を体感しました。これは正しい方向へ変わらないとイド(井戸)に引き込まれる大変なもので、必死で前へ進み日常生活にメンタライズしていきました。自我自律性を回すことの意味が少しわかった気がします。

ようやくスタートラインに立てた気持ちです。これからは宇佐美先生の教えを自身が実践できるまでしっかり聴いて、発信して身に着けたいと思っています。皆さんと共に学べる瞬間に感謝、感動しながら一歩ずつ進んでいきたいです。



PAS-SCT 看護学会トレーニング 精神科診断・薬物治療編 参加者の声

精神科診断・薬物療法トレーニングに参加して

大迫加奈

(東邦大学医療センター大森病院)

昨年大学院を卒業し今年で精神科看護師 13 年目になります。昨今の事件事故、若年者の精神疾患の増加等、心身の健康に関わる精神看護の重要性は今後も増すばかりです。患者側の問題、養育過程、環境に個々の違いがあるのは当然ですが、患者が地域移行、定着する難しさは、臨床的な回復と個人の回復を環境変化を最小限にして、同じ指標と力量のケアが一定のレベルで継続提供される必要があると思っていた時、この会の存在を知りました。そして、今回初参加してみて、内容の濃い討論や患者の不安定さ、繰り返される症状の様子を精神力動、人格機能のしくみを高橋医師から精神医学のレクチャーと解説を受け、変化の可能性を検討していく過程で私の中で気づきの連続体験でした。これまで見てきた困難事例の患者さんの言動が腑に落ち、専門職として如何に迅速に病態を把握し、アセスメントして最適化したアプローチができるのかを苦闘してきましたが、今ならこれを根拠にケアを実践していたらあの患者さんは好転していたのでは？と前向きに想像できたりもします。これは PAS セルフケアセラピィの醍醐味とも言える精神発達力動に視点を置いた一連の総合分析方法が、私自身の経験知や患者の個別性とも違う言語化できなかった、見えなかったことを理解できるようにしてくれたことと、バイオサイコソーシャルモデルに見合う納得感と満足感の高い介入法であるからなのではないかと考えています。そして、何よりも宇佐美先生を筆頭に運営いただいている同志の方々の熱量、こうして切磋研鑽できる場を設けていただいていることの感謝と共に知的好奇心の勝る思いでおります。まだまだ熟達するまでには時間を要することと思いますが、地域移行で不安なく患者さんたちが自分らしい暮らしができる地域社会の実現に尽力できるよう、今後も同志の方々と共にトレーニングを重ね精進していきたいと思っています。

2022 年度のトレーニングは、残り 2 回開催予定です。また、精神科診断・薬物療法トレーニングも残り 1 回開催予定です。

患者・家族への看護の重要な役割・機能であるセルフケア支援に関心のある方、実践能力を高めたいと考えていらっしゃる方、一緒に学んでみませんか。初めての方の参加をお待ちしております。また、トレーニングは繰り返し参加することで実践能力がさらに高まりますので、一度参加された方もぜひご参加ください。





学会からのご案内（学会事務局）

◆PAS - SCT 看護学会 第5回大会

大会長：荒木孝治（大阪医科薬科大学看護学部 教授）

大会テーマ：PAS セルフケアセラピーの可能性

日時：2022年9月4日（日） 10:00～17:30

開催方法：Web開催（リアルタイムオンライン）

事前参加費：会員 6,000 円、非会員 7,000 円 当日参加費：会員 7,000 円、非会員 8,000 円

事前参加登録期間：2021年3月1日（月）～8月21日（日）

*8月22日（月）以降の登録は、当日参加登録として承ります。

*参加登録は、大会ホームページよりお申し込みください。

お問い合わせ：第5回大会事務局

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1 四天王寺大学看護学部内

E-mail：passct5th-annual-conference@googlegroups.com

大会ホームページ <https://www.pas-sctnursingconference.com/>



◆2022年PAS - SCT 看護学会主催トレーニング 第3回

本学会トレーニングでは、自分の看護体験をもとに患者の回復を促し QOL を高めるための看護実践能力を向上させます。五大疾患¹⁾などの慢性疾患ならびにコロナ禍での患者と家族、スタッフの不安や抑うつに短時間で介入し、セルフケアを促進する最新セルフケアプログラムおよび対応困難患者²⁾への PAS セルフケアセラピー(PAS-SCT)の介入技法とそのまとめ方を学びます。この技法等は、繰り返し練習しながら修得しますので、継続してご参加いただければと思います。

（五大疾患¹⁾：悪性腫瘍，脳血管疾患，心疾患，糖尿病，精神疾患）

（困難患者²⁾：行動化・反復される自傷行為・依存や訴えが多い・長期入院・入院の繰り返し・隔離拘束がとれない・衝動性が高いと認識される患者）

テーマ：対応困難患者への PAS セルフケアセラピー

日時：2022年10月29日（土）11:00～18:30、10月30日（日）10:00～16:30

会場：あべのハルカス（大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43）*感染状況によってはオンライン開催

参加費：会員 13,000 円、非会員 15,000 円（2日間の参加費です）

申し込み：学会ホームページ内参加申込フォームまたは右記 QR コード▶▶



◆お問い合わせ：PAS-SCT 看護学会事務局

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1 四天王寺大学看護学部内

TEL：072-959-2464 E-mail：passct_office@passct.com

事務局長 松橋美奈(四天王寺大学)

事務局 石飛マリコ(日本赤十字九州国際大学)，安永薫梨(福岡県立大学)

宮崎志保(四天王寺大学)，荻堂盛大(熊本大学病院)

◆発行：PAS-SCT看護学会広報委員会

委員長 相澤和美(国際医療福祉大学大学院)

委員 樋口有紀(熊本大学大学院)

